

編集後記

『秋田英語英文学 第 63 号』では秋田大学大学院国際資源学研究科の三宅良美教授、Evan Cacali 講師と Rachel Youngblood 氏、秋田県立大学の Jason Tacker 助教、広島文教大学の Renaud Davies 講師、由利本荘市立本荘南中学校の池田勇作教諭、バーミンガム大学大学院生の Martin Spivey 氏から投稿いただきました。また本号では、新たに学校現場で働く教師からの実践報告のコーナーを設け、浦和学院高等学校の彌永万緒里教諭、横手市立横手南中学校の戸巻志穂教諭に執筆いただきました。寄稿して下さったみなさまに心から感謝申し上げます次第です。

話は変わりますが、平成 30 年 3 月に告示された高等学校学習指導要領が、いよいよこの 4 月から年次進行で施行されます。新学習指導要領では、これまでの「英語表現」に代わり「論理・表現」という科目が登場し、高校段階で学習する語彙も従来の 1800 語から 1800~2500 語へ上限が増加します。昨年と同様、何度も波が来るコロナの影響で不透明な状況ではありますが、もし機会を得ることができた際は、何らかの支援ができればと思っております。

最後になりますが、本号執筆者の先生方に感謝すると共に、本学会のなご一層の発展のため、今後とも会員の皆様の積極的な投稿をお待ちしております。

(Y. W. 記)

秋田英語英文学 第 63 号

印刷 2022 年 3 月 31 日

発行 2022 年 3 月 31 日

編集／発行 秋田英語英文学会
会長 佐々木 雅子
編集 若有 保彦

事務局所在地 〒010-8502 秋田市手形学園町 1-1
秋田大学教育文化学部内
(郵便振替 02560-8-2811)

印刷 〒010-1415 秋田市御所野湯本 2 丁目 1-9
秋田印刷製本株式会社

Akita English Studies (Akita eigo eibungaku) No.63

Contents

<Research papers>

Lessons Learned from the Recollection of Past Teacher Characteristics in Japan

.....Evan Regis CACALI , Rachel D. YOUNGBLOOD..... 1

Address terms as pronoun substitutes for speech act participants in Japanese and Javanese families

.....Yoshimi MIYAKE..... 13

Student Motivation Through Gaming: Games-Based Learning for EFL

.....Jason TACKER..... 29

A Keywords Corpus Analysis of ‘Taking the Knee’ and its Representation by the UK Press

.....Martin SPIVEY..... 39

<Conference reports>

A Report on the Akita Association of English Studies Conference Keynote

.....Renaud J. DAVIES..... 51

Creating English lessons via tablets in the classroom

.....Yusaku IKEDA..... 61

<Practice reports>

Practice report on the use of ICT in an English classroom under COVID-19

.....Maori IYANAGA..... 65

Effective Uses of ICT

.....Shiho TOMAKI..... 73

**Faculty of Education and Human Studies Graduation Theses in English Language,
Linguistics, Literature, and Education**

..... 77

**Akita Association of English Studies
Established in 1954**